

財務計算テキストチェックゼミ 第2回

テキスト①第8章、②第1～4・8章

貸倒引当金、棚卸資産、固定資産、研究開発費とソフトウェア、



オンライン開催
2023.6.21

ゼミ参加における注意点（再掲）

- ◎ 問題演習（アウトプット演習）は必須です！こちらは本ゼミでは行えないので、必ず自身で行ってください！
- ◎ パネリスト参加がおすすめです！緊張感の中でテキストの内容を思い出す練習ができます！緊張しやすい方には特におすすめします！
- ◎ 必ず予習をする！！予習不十分の状態でパネリスト参加はやめてください！参加型のゼミなので、他の人の迷惑になります・・・
- ◎ 必ず復習をする！！ただし、必ず「テキスト」に戻るようにしてください！使用したレジュメは配信しますが、あくまでも補助教材です。丸暗記×
- ◎ 本ゼミはあくまでも補助教材なので、通常講義やトレーニング演習を優先すること（入門生よりも再受験者推奨！！）

ゼミ運営のルール（再掲）

- ① 12月必ず合格する！！
- ② 当てられたら必ずミュートを解除してください！！
- ③ 当てられていないときも、当てられたつもりで、答えを考えましょう！
- ④ 質問は最後にまとめて受けます！！
わからないことはなるべくこの時間に解消しましょう。
- ⑤ まだまだ試行錯誤のところがあるので、不手際等あれば申し訳ありません。
- ⑥ ゼミとは別で自分自身で計算演習は進めること。
- ⑦ 参加者が多いと全員当てられない可能性もあります。
- ⑧ 悪口などは絶対に禁止をお願いします！！

ゼミ運営のルール（再掲）

- ⑨ ゼミとは別に計算演習は必ずしてください！
 - ⑩ 質問中はテキストを見てはいけません。全部終わってからテキストを開いてください。
 - ⑪ わからなかったことを後で確認できるように何かメモする紙があったほうがいいです。
スライドは配信するので、メモを取り過ぎてゼミを聞いていないことのないようにしてください！
 - ⑫ 電卓も持ってきてください！
 - ⑬ 勉強仲間がいる人は友達同士でもゼミをやってみましょう！
 - ⑭ 他の科目でも、テキストを見ずに思い出すという勉強法は活用できますよ！
 - ⑮ Twitterやっている方は「#テキチエ」で感想をつぶやいてくださいー！！
- ※ テキストチェックゼミ、名前が長いので「テキチエ」を略称にします～

テキスト①第8章 貸倒引当金

Q

TAC

貸倒時の会計処理について、
パターンごとに会計処理を
示してください。

A

- ・貸倒引当金を設定していない場合

(借) 貸 倒 損 失	× × ×	(貸) 売 掛 金	× × ×
-------------	-------	-----------	-------

- ・前期以前発生債権の当期貸倒れ
(貸倒引当金を設定している場合)

(借) 貸 倒 引 当 金	× × ×	(貸) 売 掛 金	× × ×
---------------	-------	-----------	-------

(借) 貸 倒 引 当 金	× × ×	(貸) 売 掛 金	× × ×
貸 倒 損 失	× × ×		

- ・当期発生債権の当期貸倒れ

(借) 貸 倒 損 失	× × ×	(貸) 売 掛 金	× × ×
-------------	-------	-----------	-------

※TX①〔例題8－1〕，〔例題8－5〕～〔例題8－7〕

Q

TAC

貸倒引当金繰入額及び
償却債権取立益の
損益計算書上の計上区分を
教えてください。

- ・貸倒引当金繰入額
営業債権→販売費及び一般管理費
(営業外債権→営業外費用)
- ・償却債権取立益
営業外収益

※TX①〔例題8－4〕，〔例題8－10〕

Q

TAC

貸倒見積高の算定にあたって
債務者の財政状態及び
経営成績等に応じて3つに区分する。
その区分を答えてください。

一般債権
貸倒懸念債権
破産更生債権等

※理論 T X 第18章IV. 2.

Q

TAC

次の文章の誤りを指摘してください。

貸倒懸念債権は貸借対照表上、
「貸倒懸念債権」に計上する。
また、破産更生債権等も貸借対照表上、
「破産更生債権等」に計上する。
なお、破産更生債権等は通常固定資産
（有形固定資産）に区分する。

- ・ 貸倒懸念債権は勘定科目は変更しない。
（貸付金などのままで0K）
- ・ 破産更生債権等是有形固定資産でなく、
投資その他の資産である。

※ T X ① 〔例題 8 - 13〕 ～ 〔例題 8 - 15〕

Q

TAC

貸倒実績率法による
貸倒引当金の計算方法を
説明してください。

貸倒実績額を債権金額で割り、
実績率を求める。

⇒実績率の平均を求める。

⇒債権金額 × 実績率 − 貸倒実際発生額
より引当金の金額を求める。

※TX①〔例題8－11〕

Q

TAC

1. 債権の回収期間は6ヶ月。
2. 債権の期末残高 X 1年度末10,000円
3. 貸倒額（当期売上当期貸倒は無い）
X 0年度に100円, X 1年度に200円,
X 2年度に300円貸し倒れた。

X 1年度末に保有する債権の貸倒実績率を
教えてください。

A

TAC

3%

(= X 2 年度貸倒300 ÷ X 1 年度末残高10,000)

X 1 年度末にある債権10,000円について、
X 2 年度に300円貸し倒れ発生している。

※TX①〔例題8－11〕

Q

TAC

キャッシュ・フロー見積法の算定方法を説明してください。

A

TAC

債権の元本及び利息を、
当初の約定利子率で割り引いた
割引現在価値の総額と、
債権の帳簿価額との差額を
貸倒見積高とする。

次年度における貸倒見積高の減額分は
原則「受取利息」勘定で処理する。

※TX①〔例題8－13〕

テキスト②第1章 棚卸資産

Q

TAC

仕入戻し、値引、割戻、仕入割引
それぞれのどのように会計処理を行うか
説明してください。

A

TAC

仕入戻し、値引、割戻は
仕入勘定を減額する。

仕入割引は決済時に営業外収益（仕入割引）とする。

（仕入割引は早期決済による財務努力の
成果→財務収益→営業外収益とする。）

※TX②〔例題1－8〕～〔例題1－10〕

理論TX第7章Ⅲ. 2. 研究

Q

TAC

仕入戻しと値引（割戻）について、
相違点は何か説明してください。

仕入戻しは仕入個数が減少する。

仕入単価は変化なし

仕入値引（割戻）は仕入単価が減少する。

仕入個数は変化なし

Q

TAC

前渡金のB/S 上の計上区分を
教えてください。

流動資産

（前渡金は、後日商品を受け取る権利）

※TX①〔例題1－12〕，〔例題1－13〕

Q

制度上、棚卸資産の数量計算は
「継続記録法」により行う。
この計算方法を説明してください。

A

TAC

受入と払出の数量を継続して記録し、
払出数量及び期末数量を明らかにする。
(加えて実地棚卸を行う。)

※理論 T X 第7章Ⅲ. 1.

Q

TAC

先入先出法と最終仕入原価法について
どのようなときに売上原価の金額が
異なる結果となるか説明してください。

期末在庫数量が
最終仕入数量を上回る場合に
結果が異なる。

※TX①〔例題1－21〕

理論TX第7章Ⅲ. 2. 研究

Q

TAC

期首在庫：なし

当期仕入：1回目⇒8個（@30円）

2回目⇒5個（@20円）

当期払出：7個

期末在庫：6個

この時、先入先出法と最終仕入原価法における売上原価はいくらか答えてください。

A

・先入先出法 → 210円

当期払出@30円×7個=210円 又は,

当期仕入 (@30円×8個+@20円×5個)

－期末棚卸 (@30円×1個+ @20円×5個) =210円

・最終仕入原価法 → 220円

当期仕入 (@30円×8個+@20円×5個)

－期末棚卸@20円×6個=220円

※T X①〔例題1－21〕

Q

商品の払出単価の計算方法について、
移動平均法と総平均法の異なる点を
説明しなさい。

平均単価を計算するタイミングが異なる。
移動平均法は商品を購入する都度、
平均単価を求め、
総平均法は一定期間の仕入商品に対して
一括して平均単価を求める。

※TX①〔例題1－21〕理論TX第7章Ⅲ. 2.

Q

TAC

他勘定振替高とは何かを
会計処理とともに説明してください。
またその処理上の注意点を挙げてください。

他勘定振替高とは販売目的で仕入れた商品が販売以外の原因により減少した場合に、売上原価から除外し、他の勘定に振り替えるものである。

なお、他勘定振替高がある場合、前T/B 仕入は当期商品仕入高を示さない点に注意すること。

※TX①〔例題1－22〕

Q

TAC

商品低価評価損、棚卸減耗費の
計算方法を説明してください。

まず帳簿棚卸高と実地棚卸高の差額を棚卸減耗費とする。

次に、正味売却価額が原価を下回る場合に取得原価と正味売却価額の差額を商品低価評価損とする。

※TX①〔例題1－25〕

Q

TAC

正味売却価額の算定方法を
教えてください。

売価－（見積追加製造原価＋見積販売直接経費）

※間接経費は控除しない！

※T X ①〔例題 1－25〕

理論T X第26章Ⅱ. 4. (2)

Q

TAC

商品低価評価損及び棚卸減耗費の
P/L上の計上区分を教えてください。

商品低価評価損

：原則は売上原価、
例外で特別損失のこともあり

棚卸減耗費

：原価性ある場合は売上原価または販売費、
原価性無い場合は営業外費用又は特別損失。

※TX①〔例題1－24〕～〔例題1－26〕

理論TX第26章Ⅱ. 9. (1)

Q

TAC

商品低価評価損が
特別損失に計上されるのは
どのような時か説明してください。

臨時の事象に起因し、かつ多額である時。

※「かつ」である点に注意する！

理論ⅠⅩ第26章Ⅱ. 9. (1)

Q

TAC

売価還元法は「？」の類似性に基づく
棚卸資産のグループごとに
期末棚卸資産のグループを求める。

「？」に当てはまる言葉は何か、
次から選んでください。

a 商品の性質や計上 b 値入率 c 値段

b 値入率

(値入率は利益率のイメージ)

※理論 T X 第7章Ⅲ. 2. (4)

Q

TAC

売価還元法中原価率の
計算方法を説明してください。

$$\text{原価率} = \frac{\text{期首商品原価} + \text{当期純仕入原価}}{\text{期首商品売価} + \text{当期純仕入売価}(*1) + \text{純値上額}(*2) - \text{純値下額}(*3)}$$

(*1) 当期純仕入売価 = 当期純仕入原価 + 原始値入額

(*2) 純値上額 = 値上額 - 値上取消額

(*3) 純値下額 = 値下額 - 値下取消額

※T X ①〔例題 1 - 29〕

Q

TAC

売価還元法の期末評価について、
「原則的な方法」
「容認で認められている方法」
それぞれの処理方法を説明しなさい。

A原則

→期末における正味売却価額が
帳簿価額よりも下落した場合に
正味売却価額とする。

※T X①〔例題1－31〕

容認

→原価率を算定する際に純値下額を考慮外とする
売価還元低価法 of 原価率を用いる。なお、
商品評価損を計上する方法としない方法がある。

※T X①〔例題1－32〕

テキスト②第2～4章 固定資産

Q

TAC

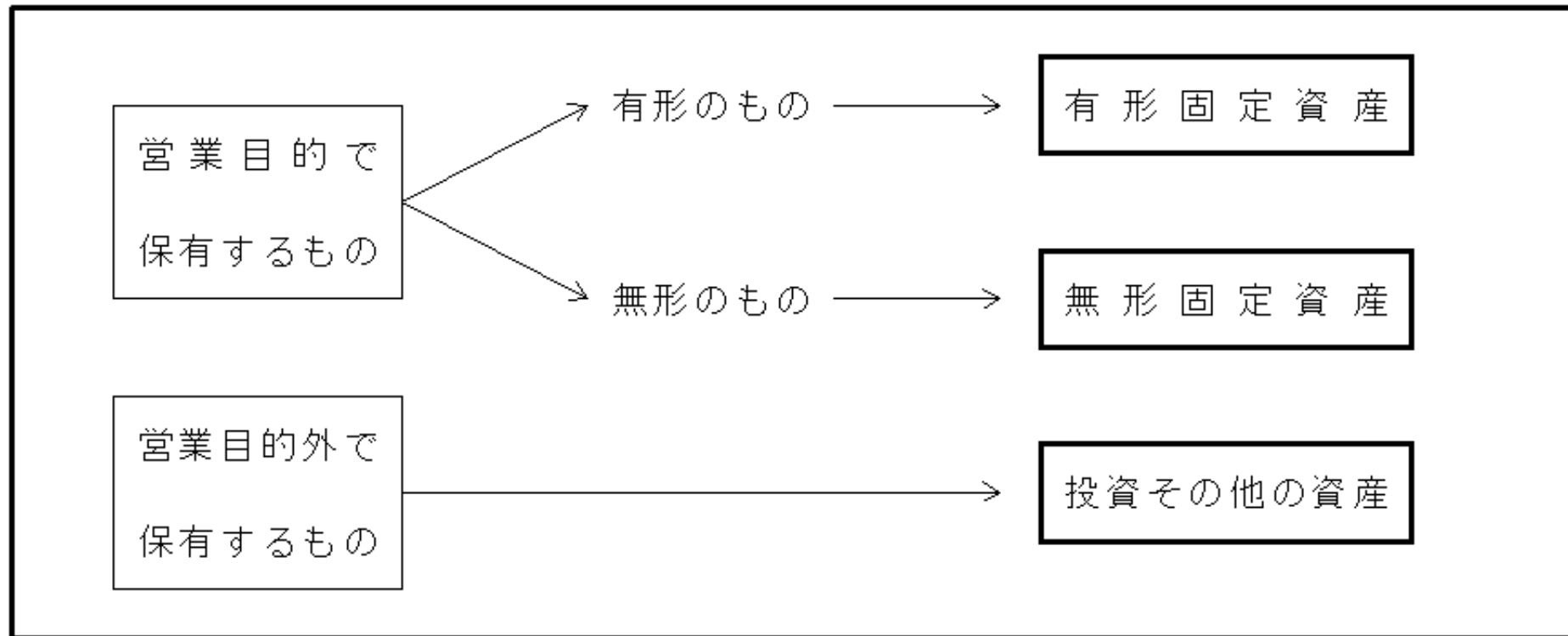
固定資産に関して3種類の区分を答え、
それぞれの区分の意味を説明してください。

A

固定資産は、

TAC

- ①有形固定資産， ②無形固定資産及び
③投資その他の資産に区分する。



固定資産の交換について、

- ①同一種類かつ同一用途の固定資産同士の交換の場合と
 - ②同一種類かつ同一用途の固定資産同士の交換以外の場合
- それぞれの会計処理を説明してください。

また、①については「投資の（？）」と考え、

②については「投資の（？）」と考えられる。

上記の（？）にあてはまる言葉を答えてください。

A ① 取得原価は提供した
固定資産の適正な「簿価」とする。

「投資の継続」

② 取得原価は提供した
有価証券等の「時価」とする。

「投資の清算，再投資」

※TX②〔例題2－3〕〔例題2－4〕

理論TX第8章I.4.

固定資産を自己建設した場合に要した
借入資本の支払利息について、
原則的な処理と容認処理を説明しなさい。
また各々の会計処理が認められている
理由を説明して下さい。

A

原則的には取得原価に算入せず、
支払利息として計上する。

理由：

- ①財務費用のため営業外費用にすべき。
- ②時の経過により生じるため
発生した期に費用計上すべき。

ただ容認処理として建設に要するかつ稼働前の
期間に属するものは取得原価に参入できる。

理由：費用収益対応の観点、政策的な観点から。

※理論 T X 第 8 章 I . 2 .

Q

減価償却について、
耐用年数4年（定額法）の償却率を
教えてください。

A

TAC

0.25 (= 1 ÷ 4 年)

※TX①〔例題2－10〕

Q

「償却率」が資料に与えられている
場合の減価償却について、
定額法と（旧）定率法の処理方法で
注意する点を答えてください。

定額法→「取得原価」×償却率

定率法→「期首帳簿価額」×償却率

定額法では残存価額を計算上考慮する，

定率法は考慮する必要なし

※TX①〔例題2－10〕，〔例題2－12〕

Q

TAC

減価償却の資金留保効果を説明しなさい。

減価償却に相当する資金は
収益により回収される。

（固定資産の流動化が起きる。）

減価償却費は非現金支出費用である。
→配当などにより資金が社外流出する
ことなく企業内に留保する。

※理論T X第8章Ⅱ. 2.

Q

TAC

200%定率法について、
耐用年数が5年の時の償却率を求め、
その減価償却の計算方法を
説明してください。

- ・償却率→ 0.4

定額法の償却率（1 ÷ 5年）の2倍

- ・計算方法

定率法による償却費を計算する。

償却費が償却保証額（取得価額 × 保証率）を下回る年度から、改訂取得価額 × 改訂償却率で計算する。

※TX①〔例題2－15〕

Q

TAC

資本的支出と収益的支出それぞれの
会計処理を答えなさい。

また、資本的支出がそのような処理を行う
理由を答えなさい。

資本的支出→固定資産の取得原価に算入する
収益的支出→販売費及び一般管理費とする

- ・理由：資本的支出は将来の収益の増加がある
→取得原価に算入し（減価償却により）将来に
わたり費用化

※TX①〔例題2－26〕 理論TX第8章I. 6.

Q

TAC

支出額を資本的支出及び収益的支出に
区別する計算式を説明してください。

$$\begin{aligned}\text{資本的支出} &= \text{支出額} \times \frac{\text{延長耐用年数}}{\text{支出後の残存耐用年数}} \\ \text{収益的支出} &= \text{支出額} - \text{資本的支出} \\ &= \text{支出額} \times \frac{\text{当初の残存耐用年数}}{\text{支出後の残存耐用年数}}\end{aligned}$$

※TX①〔例題2－26〕

買換について、値引を把握する場合、
新資産の取得原価は現金正価から値引を
考慮した額となる。

値引はどのように計算するか説明してください。
(ヒント：現金正価、下取価額、旧資産の簿価、
旧資産の時価)

A 下取価額－旧資産の時価

Memo:

下取価額が時価よりも高いのは，買ってくれるお店からのサービス分が含まれるイメージであり，その差額をお店から買う値段から値引する。

※TX①〔例題2－27〕

Q

買換について、値引を把握する場合の売却益と値引を把握しない場合の売却益はどのように計算するか説明してください。

（ヒント：現金正価，下取価額，旧資産の簿価，旧資産の時価）

A

TAC

- ・ 値引を把握する

旧資産の時価－旧資産の簿価

- ・ 値引を把握しない

下取価額－旧資産の簿価

Memo：ありじなしした

（値引「あり」→時（じ）価，

値引「なし」→下（した）取価額）と覚える

※TX①〔例題2－27〕

Q

TAC

耐用年数の変更での
計算上の注意点を挙げてください。

- ・ 当期首に変更した場合は
当期より変更後の耐用年数を用いる。
- ・ 当期末に変更した場合は
当期は変更前、
次期より変更後の耐用年数を用いる。
- ・ 変更後は残存耐用年数を用いる

※ T X ① 〔例題 2－31〕

Q

TAC

圧縮記帳について直接減額方式による
会計処理を説明してください。

圧縮記帳により生じる費用
（国庫補助金等の金額）を
「固定資産圧縮損」として計上するとともに、
同額を固定資産の取得原価から直接減額する
方法である。

※TX①〔例題2－33〕

Q

TAC

無形固定資産の
減価償却方法や注意点を
説明してください。

A

TAC

直接法，定額法，残存価額ゼロ

B/S の金額は期末における未償却残高となる

※TX①〔例題3－1〕

Q

TAC

のれん、借地権、電話加入権の
償却期間を答えなさい。

A

TAC

のれん→20年以内

借地権、電話加入権→償却しない

Q

TAC

建設仮勘定のB/S 上の計上区分を
教えてください。

A

TAC

有形固定資産

※TX①〔例題2－28〕

Q

以下の勘定科目について、
P/L 上の計上区分を答え、その区分となる理由も併せて説明してください。

- ①建物減価償却費
- ②のれん償却額
- ③投資不動産減価償却費

A

①販売費及び一般管理費

②販売費及び一般管理費

③営業外費用

【理由】

①建物（有形固定資産）と②のれん（無形固定資産）は営業目的で保有する資産であり，③投資不動産（投資その他の資産）営業目的以外で保有する資産であるため。

※T X①第1章，〔例題4－1〕，理論T X第4章Ⅱ. 2. (5)

テキスト②第8章

研究開発費とソフトウェア

研究開発費の処理方法としては

- ①すべて資産計上する方法
- ②条件付きで資産計上する方法
- ③すべて発生時に費用処理する方法が考えられる。

そのうち、
会計基準上採用されている方法を答えるとともに
採用されていない方法の問題点を指摘してください。

採用されている方法→③

問題点

- ①研究開発費は発生時には将来の収益獲得が確実とはいえず、資産計上してしまうと損失の繰延となるおそれがある。
- ②資産計上要件を定める必要があるが、客観的に判断可能な要件を規定することは困難であり、抽象的要件のもとで資産計上を求めると企業間の比較可能性が損なわれるおそれがある。

Memo: 企業間の比較可能性を担保することが大事！！

※理論T X 第11章Ⅱ. 1.

Q

TAC

研究開発目的で購入した機械等の
会計処理を 2 パターン答えてください。

特定の研究開発目的のみ使用

→取得原価を取得時の研究開発費

他の目的に使用できる

→資産計上し、減価償却費を研究開発費とする。

※TX②〔例題8－1〕，理論TX第11章Ⅱ.4.

市場販売目的のソフトウェア制作費について
それぞれの処理法を教えてください。

①最初に製品化された製品マスター完成までの人件費：40,000円

最初に製品化された製品マスター完成後

②機能の追加に用いたもの：30,000円

③操作性の向上に要した費用：20,000円

④バグ取り：10,000円

- ①40,000→研究開発費
- ②30,000→ソフトウェア（無形固定資産）
- ③20,000→ソフトウェア（無形固定資産）
- ④10,000→修繕費など（費用）

※TX②〔例題8－2〕理論TX第11章Ⅲ.2.(2)

Q

TAC

前の問いで②の処理（資産計上）をする理由を説明してください。

将来の収益に貢献する→資産計上→
（減価償却により）将来にわたり費用化
することで、収益費用が期間対応する。

（②機能の追加や③操作性の向上は価値
の増加⇒将来の収益増加するから資産計
上します。）

※TX②〔例題8－2〕理論TX第11章Ⅲ. 2. (2)

Q

TAC

市場販売目的のソフトウェアの減価償却について
会計処理や注意点を説明してください。

A

TAC

- ・償却方法は見込販売数量（or収益）に基づく方法or均等配分額（原則3年以内）のどちらか大きい方。
- ・每期、期首の帳簿価額を元に計算すること。
- ・数量基準の式の分母は見込，分子は実績
- ・見込販売数量（収益）を変更した場合は、当期末なら次期から変更する。
- ・未償却残高が翌期以降の見込販売収益を上回った場合は超過額を費用計上する。

※TX②〔例題8－3〕～〔例題8－4〕

Q

TAC

自社利用のソフトウェアについて、
資産計上の要件を説明してください。

ソフトウェアの利用により
将来の収益獲得又は費用削減が
確実であるか否かを判定し、
確実な場合は資産計上する。

（減価償却により将来の収益と対応する）

※理論 T X 第11章Ⅲ. 2. (3)